

# 教たま

稚内北星学園大学  
数学教員養成ゼミ通信  
第 15 号  
2015.12.11



連載 12 回目は、3 年の佐藤幸輝君（札幌北星学園大付属高出身）。バスケットを愛する好青年。「じゃらん」のモデルなんかもやりました。副ゼミ長として、教たま編集長としてゼミの先頭に。



●ゼミの雰囲気はどう？

▲普段はみんな仲が良くって和気藹々としていて力を入れるところと抜くところの切り替えがしっかりやれていると思っています。

●どういうゼミにしていきたいんですか？

▲無料塾や管内町村の教育支援などのゼミ活動が本格的に始まっているので、それを定着させていきたいです。後期のゼミ研究「子どもの貧困」は大事なのでしっかりやっていきたい。

●なにか一言、どうぞ！！

▲クリスマスを一人ぼっちで過ごす（クリボッチ）今年で 21 年目（＝年齢）……悲しい

●教師以外に考えていた将来の仕事は？

▲漁師。子どもの頃の「いきなり黄金伝説」の濱口に憧れて。でも修学旅行の遊覧船で酔いあきらめました（笑）



## 「教たま特別版」発行

昨年の創刊後に続き大学祭時に、ゼミ生 12 名の教育レポートと今年度のゼミ活動を紹介する冊子を発行しました。大学図書館で希望者に無料配付。宗谷管内の教育関係者にも配付予定。



※表紙絵は木村英之君（4 年）のへ豊富の思い出です。

## 今年の大学祭 3つの成果がありました。

●お客さんの笑顔がいっぱい！！●学生同士の結束力向上！！

●売上、上々！！の 3 つだ。教職ゼミが発足して 3 年。

大学祭の「きつねうどん」と「体験版 綿アメ」も 3 度目。ゼミ研究誌「教たま特別版」も出せた。

千尋さんの感想  
去年の冬のある日、バス停で一人の男性が驚いた表情で私の方を見ていた。その男性は「あ、わたあめのお姉さん！」と声かけてくださった。去年の学祭でお子さんと一緒に来てくれた方だった。そして今年も親子で足を運んでくれた。毎年、同じことをしている私たち。でもそれは「あそこに行けば、わたあめとうどんが食べられる。わたあめ作りも体験もできる」とお客様にわかってもらい、評価して頂ける大きなポイントであると身をもって感じた。

伝統を継いでいく難しさもあると思うが、みんなの笑顔や人とのつながりを大事に、よりよい学祭がまた来年開催できることを期待したい。【渡辺千尋（4 年）】

## 短信

■4 年生 5 人の教育実習が先月の橋本さんで終了。全員がよく頑張りました。今月時点の進路内定は横浜市教員と礼文町職員。残りの 3 人も全員教職希望 ■8 月に 2 泊 3 日で実施した豊富町の小中学生学習支援が好評だったため 1 月中旬にも実施へ ■中央商店街「まちらぽ」で先月から毎週火曜日の夕方 3 時半から 5 時まで無料塾開始。ゼミ生 2 名が都合つけて担当です。

今回は学祭がメイン。自分たちの活動を振り返る機会に。良い悪いはあるけれど、みんなでやり切った 1 年だった。これからも無料塾が続き、豊富遠征もあるので 3 年生の佐藤君やゼミ長の上浦君を中心にしっかりやっていきたいですね。

編集後記です。今回は阿部浩幸（4 年）の担当です

母校（釧路）の教育実習、勉強になりました



僕の考えたゼミの 5 大ニュースを紹介します。

第 1 位 豊富遠征 →絆も深まり、地域に貢献できた。

第 2 位 教員採用試験 →教員になる意識が強まった

第 3 位 教育実習 →自分を見つめなおす時間になった

第 4 位 無料塾 →色々な児童・生徒と関われる

第 5 位 大学祭 →「特別活動」を体験できる良い機会だった。

## 夜寝ず先生の ありがたい お言葉 第 2 回



特別支援教育をコストと捉え、出生前に障がいの有無を判断し減らすべきという教育委員の発言（後に撤回）と、特別支援教育に教員人生を捧げ、障がいを持つ子どもの成長と発達を大変熱心に語られる先生のお話を同時期に聞いた。教育は何のためにあるのかという問いへの理解を深めるきっかけとなった。このように同時期に異なる意見を別々に聞き考えさせられることが生まれ起こる。これも学習の醍醐味。（ゼミ担当の米津直希先生からでした）